



# ゴロスケ報々



## ●横浜自然観察の森秋まつり●

## 共催行事のお知らせ

今年度から10月の「森を守るボランティア体験」を実施せず、同じ月に実施している「秋まつり」に含めることになりました。そのためセンターとの共催行事とし、名称も「横浜自然観察の森秋まつり」となりました。

- ・10月23日(日) 10:00~13:40 (受付9:45~)
- ・友の会会員(スタッフ) 9:30集合
- ・一般参加者 30名募集(先着順)
- ・申し込み 9/11~10/16 友の会メール(kansatsunomori@gmail.com)、  
またはセンターFax(045-894-8892)で

畑での収穫をはじめ、8つのプロジェクトの体験ができます。まだ入会されていないお友達を誘ってみてはいかがでしょうか。詳しくは「秋まつり」のチラシをご覧ください。

友の会は、横浜自然観察の森を中心として、身近な自然とふれあい、自然を愛し、自然に学び、自然を守り、育て、自然を愛する人々を育てようということを目的としています。

## ●7月定例会報告●

日時 2016年7月17日(日) 13:00~15:00  
 出席者 大浦、落合、片岡、篠原、関根、高橋む、中里、橋本、半田、村松、山口、渡部、古南R、掛下R

## 議題

1. 行事報告  
5月下旬から7月上旬の行事報告、活動報告をおこないました。  
6月の「森を守るボランティア体験」の参加者9名のうち、1名が友の会に入会しました。
2. 行事予定  
7月中旬から9月までの行事予定の確認をおこないました。
3. 各プロジェクトの活動報告と活動予定の確認をおこないました。
4. ごろすけ館の利用希望の調整をおこないました。
5. 事務局より
  - ・「秋まつり」についての原案を承認しました。
  - ・会員動向調査の報告(2015年度)が会長からありました。主な内容をあげます。
    - 1) 2015年度の会員数は141名。前年比1名増加。3年続けて横ばい状態。
    - 2) 2015年度の新入会者は11名。前年に比べ3名増加。
    - 3) 会員の男女比は6:4。年齢分布は女性が40代から70代まで平均的に分布しているのに対して、男性は60代・70代・50代・80代の順に多い。
    - 4) 入会のきっかけでは「行事に参加して」が最も多かった。(森ボラ2、自然案内人講座1、未記入3)インターネットが1件あった。
6. センターより  
「観察センターだより」のページをご覧ください。

次回定例会は  
 9月18日(日) 13:00~  
 観察センター研修室  
 ※定例会は会員の方どなたでも参加できます。

## ●定例行事の報告「定点カメラで動物調査」●

## 定例行事の報告

5月~11月の第2土曜日に活動しています。森の中にカメラを設置、1か月後に回収し、写真チェックを行っています。7月の活動日はあいにくの雨。カメラの設置は次の日にして、写真チェックのみ、センターからプロジェクターをお借りして、ゴロスケ館の中で写真を大きく映して行いました(いつもはセンター内のディスプレイを使っていますが、この日は故障)。大きく映すと動物の見分けも付きやすく、迫力が違います。たてがみ(?)の立派なタヌキが登場したときは盛り上がりました。

ご興味あるかたは、上記活動日の11時から、センターかゴロスケ館で写真を見ているので、ちょっとのぞいてみてください。

## ●森を守るボランティア体験 報告●

「鳥のくらし発見隊」担当  
 6月18日(日) 参加者9名 スタッフ6名  
 テーマ「夏鳥のさえずりを楽しもう」

いつものように研修室で観察の森の概要、友の会の活動内容についてお話をしたあと、森に出ました。

コースは桜林→ミズキの池→アキアカネの丘→タンポポの道→センター。

夏鳥のさえずりは、ホトトギスの声が出たことを除けば、期待していたオオルリやセンダイムシクイの声は聞けませんでした。それでも池を横切ったカワセミの姿に歓声があがりました。入会の案内後、早速1名の方が入会されました。

## 〈見聞きした鳥〉

ホトトギス、トビ、カワセミ、コゲラ、アオゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、メジロ、スズメ、コジュケイ、ガビチョウ

### 30周年で思い出した昔の話

観察の森が開園して30周年、自然の時間の流れとすればほんのいっときでも、人の時間の尺度から見ると一生の約4割を占める長さですね。あと何回森に来ることが出来るだろうか。

森ができて通い始めたころ、生き物を観察したり調べたりするための仕掛け(道具や機材など)を作っていたことがありました。

例えば、

- 観察センターのシジュウカラの巣箱に親鳥が運んでくる餌をビデオで記録しながらテレビの画面に映して来園者が見える仕掛け
  - カメラの前を生き物が横切ると自動でシャッターが切れる仕掛け
  - 50mほどのケーブルの先にマイクをはんだ付けしてラジカセにつなぎ、遠くから音で観察する仕掛け
  - 巣箱の天井にCCDカメラの基盤を取り付け、離れた場所から中を見る仕掛け
- このようなものを半田ごて片手にセンターなどで作っていました。

何かを観察したり調べたりするために仕掛けを作るのは、大変ではあるけれど楽しいものでした。

とは言え、最近は作る機会も減ってしまいました。あの頃と比べ、なかなか時間が取れないということもありますが、わざわざ自分で作らなくても似たような機能を持った製品が色々と市販され、流用できるようになったということが理由でしょうか。

本来の目的とは違う使い方だけれど、視点を変えれば生き物の観察などに使えるというものは意外に多いのではないのでしょうか。

防犯カメラ(監視カメラ)などはそのよい例でしょう。元々は不審者対策用に市販されていますが、人が通ると熱を感じて写真やビデオを撮影し、暗闇でも赤外線を照射して撮影可能というものです。

実際、フクロウの巣箱のモニターに使ったところ、巣箱をのぞき込むアライグマを捉えるという成果を上げました。

この他にも生き物の観察や調査などに役立つものがたくさんあると思います。みなさんもどんなものが役に立ちそうか、ぜひ考えてみてください。

あき

## ●安全管理講習「野外活動時における熱中症の予防」報告●

熱中症は死亡にもつながる重大な病気。予防は「暑さを避け、こまめに水分や塩分を補給」

6月26日（日）に行われた安全管理講習「野外活動時における熱中症の予防」について、参加できなかった方々への情報提供も兼ねて報告します。参加者は23名（友の会18名、レンジャー5名）でした。

講師の田中英登先生（横浜国立大学教育人間科学部 教授）は環境生理学がご専門で体温調節を中心に研究しておられる熱中症の第一人者です。

熱中症は、季節を問わず、また野外に限らず室内でも発症が見られます。原因は高温と体を動かす身体活動による体温上昇です。まず体温が上がると熱を逃がそうとして血液が皮膚に集まり、循環する血液量が減って血圧が低下し失神を起こすことがあります。また発汗により脱水症状になります。汗と共に外に出る塩分（ナトリウム）は通常は血液に再吸収されますが、激しい発汗ではこれができず塩分濃度が低下し、「けいれん」いわゆる筋肉がツルという症状を起こします。さらに脱水と内臓への循環血液の減少は、熱疲労と呼ばれる「倦怠感、めまい、頭痛、吐き気」を示し、応答が鈍い、言動がおかしい、意識を失うという重篤な症状（熱射病）から死亡に至ることもあります。

特に注意すべきは小さな子どもと高齢者。小さな子どもは汗腺が未発達で体温を調整しにくい「変温動物」のような体質です。高齢者は重症化しやすく、救急搬送の多くが65才以上だそうです。

予防のためには「暑さを避ける」こと。そのためには、行動の工夫と生活環境の工夫が必要です。

行動の工夫とは、暑い日には無理をせず外出しない、外出先では涼しい場所に入る、休憩を増やす。室内でも高温になりそうな時はエアコンを適切に使うことが必要です。生活環境の工夫として、衣類は汗を吸って蒸発させるものを、襟元はゆるめてゆったりと着ること。帽子は必須で、冷却グッズの利用も効果的です。注意すべきは清涼感が得られるメントール系のスプレー。体温を下げる効果はなく暑い感覚を鈍らせるのでかえって危険です。

その上で、汗で失った「水分や塩分をこまめに喉が渇く前に補給」すること。水と塩だけでは吸収率が悪く、一緒に糖分をとることが効果的。エアコンを使うと水分損失が多くなるので、室内でも水分はちゃんととること。また激しい発汗でなければ、三度の食事をバランスよくとっていれば塩分の不足を過度に心配する必要はありません。念のためですが、アルコールは利尿作用で脱水が進行するので、ビールを飲むだけでは対策にはなりません（笑）。

発症が疑われる場合、救命のポイントは早く体温を下げること。涼しいところに移し、身体を冷やし、水分を与え、それでも改善がなければ救急車を呼んでください。

（安全管理担当理事 中塚）

## ●森の作業体験(炭焼き) 報告●

炭焼き体験

5月21日(土) 参加者 大人8名 子供4名 会員 21名

大窯及びドラム缶窯炭焼きに参加していただきました。大窯による炭焼きは翌日迄かかりましたが一日目を参加していただきました。子供たちは直火に触ったり見たりした経験がないようで、楽しそうでした。

午後は竹細工や火おこしやコースター作り等を楽しんでもらいました。火おこしで親子二名が発火に成功し火おこし名人の賞状をおくりました。

雑木林ファンクラブ

## 友の会行事のお知らせ

### ●ミズキの池ハイド前の環境整備をしよう●

ミズキの池にあるハイド前の草が繁茂し、池に訪れる野鳥達の姿が見にくくなっています。来園者の為に会員の皆さまのご協力を得て、草刈りを実施します。ご協力よろしくお願ひします。

1. 実施日時 : 2016年9月4日(日) 9時10分集合~11時頃まで
2. 集合場所 : 観察センター前
3. 作業場所 : ミズキの池ハイド前
4. 服装等 : 汚れても良い服装、飲み物、軍手。(少雨決行)
5. 参加資格 : 友の会会員(中学生以上)

担当 カワセミファンクラブ

### ●森の作業体験(間伐体験)のお知らせ●

森の木を鋸で切り倒します。いい汗をかきましょう。道具、安全具は用意します。

- 1.日時 : 2017年 9月24日(土曜日) 10時から14時まで
- 2.集合時間・場所 : 横浜自然観察の森 炭小屋前 10時
- 3.参加条件 : 小学生以上 小学生の方は 保護者同伴。先着30名様
- 4.服装 : 作業可能な服装(長袖、長ズボン)、軍手、スニーカー、帽子
- 5.申し込み方法 : 参加者全員の氏名、年齢、電話番号を記入して  
電話 045-895-5151 E-Mail: kansatsunomori@gmail.com まで
- 6.その他 : 昼は味噌汁をだします。おにぎりなどをご用意ください。

担当: 雑木林ファンクラブ

### ●カワセミファンクラブ特別写真展「野鳥は何を食べているのかな写真展」●

この森で観察できる野鳥達が普段何を食べているのか。なかなか目にする事の少ないその実態を、カワセミファンクラブ会員がカメラで捉えた写真展です。一般の来園者にこの森の野鳥達の食事風景を楽しんで頂けたら幸いです。

1. 開催期間 : 2016年10月2日(日) ~ 12月3日(土)
2. 開催場所 : ゴロスケ館
3. 主催 : 友の会「カワセミファンクラブ」



# YOKOHAMA NATURE SANCTUARY NEWS 8

横浜自然観察の森・自然観察センターだより

2016年 8月号

## おしらせ・お願い

### ●30周年記念トークショーにおいでください

日本野鳥の会会長の柳生博が、森の魅力を語ります。友の会からは大浦晴壽さんにご登壇いただき、自然観察の森の魅力をお話しいたします。

くわしくは、同封のチラシ、または自然観察センターのホームページをご覧の上、お申込みください。 <http://www.wbsj.org/sanctuary/yokohama/>



### ●園内の工事と業者さんによる環境管理作業の予定

◆業者さんによる園内の樹木の伐採、草刈

◆環境管理のため、8月下旬から横浜市の委託する造園業者さんによる草刈・草抜を実施する予定です。また、倒壊の危険のある枯れ木や、横浜市本来の自生種ではない樹木等の伐採も行います（アキアカネの丘付近のトウネズミモチ、桜林のソメイヨシノ等）。生きものへの影響が少なくなるように行いますが、お気づきの点があれば、レンジャーまでお知らせください。

◇ピクニック広場は水道施設の耐震工事のため、2017年1月31日まで使用できません。

◇何かとご不便をおかけしますが、利用者の皆さんの利便性・安全性向上と環境の改善のための作業ですので、ご理解・ご協力のほどをよろしくお願いいたします。



## 保全管理計画のフォローアップ

### 【報告】★保全管理フォローアップの会 第2回 7月2日（土） 13:00～15:00

○参加者 友の会6名（片岡章さん、藤原功さん、落合道夫さん、渡部克哉さん、上原明子さん、篠原由紀子さん） 横浜市（藤田智さん、加藤さおりさん）  
レンジャー（古南幸弘、掛下尚一郎、黒川麻紀野）

○内容 草本層の植生の変化を記録するために設置した5m四方の調査区のうち、北側の2区画を調査し、その周囲のセイタカアワダチソウを抜きました。残りの林内のセイタカアワダチソウは7月30日の横浜栄高校の夏季体験学習の機会に雑木林ファンクラブの皆さんと抜き取ることにしました。また昨年度から課題としている南側林縁部のツル植物の管理は、9月17日（土）14時～行なうこととしました。

### 【報告】★保全管理懇談会 第1回★ 7月18日（日） 15:40～17:15

○参加者 友の会13名（山口博一さん、藤田薫さん、村松古明さん、篠原由紀子さん、上原明子さん、佐々木美雪さん、藤田剛さん、吉田賢一さん、藤原功さん、片岡章さん、和田全弘さん、落合道夫さん、大浦晴壽さん） 横浜市4名（道場守里さん、平井大輔さん、藤田智さん、加藤さおりさん）  
レンジャー3名（古南幸弘、掛下尚一郎、黒川麻紀野）

○内容 今年度、横浜市（委託業者）の行なう草刈や外来種の伐採等の環境管理作業、改修工事、レンジャーの行なう環境管理作業等について報告し、意見交換を行いました。水鳥の池内の階段の補修について、カシの森内の希少種生育地のカヤの木の伐採の要望、過去に植栽されたヤマボウシの扱いの方針、国内外来種の捉え方について、南部斎場側のスギ林の管理の可能性について等意見をいただきました。

### 【予定】★クツワムシ分布調査（参加者募集）

「ガチャガチャガチャガチャ…」と鳴くクツワムシはやぶに住む昆虫で、神奈川県内では数が少なく

なっています。園内では桜林を中心に分布していますが、クツワムシを調べることで、やぶの環境をうまく残しているかどうかを確かめます。調査方法は簡単で、一定のコースを歩きながら、クツワムシの鳴いている場所をみつけて、地図に記録します。鳴く虫の好きな方、ぜひご参加ください。要申込み：レンジャー古南 kominami@wbsj.org まで。

○集合 18:30 自然観察センター 中締め 20:10 終了 21:10 自然観察センター付近

○調査日 8/27、9/3、10（いずれも土）★風雨激しい場合は翌日同時刻に延期

○準備等：歩きやすい調査のできる服装（長袖・長ズボン）・靴で。懐中電灯、虫よけ、筆記用具。

### 【予定】★保安全管理フォローアップの会 第3回 （参加者募集）

**9月3日（土） 13:00～16:00 勉強会「森林環境と土壌動物の関係を調べよう」**

**講師：金子信博先生（横浜国立大学教授）**

1月に行なった「森作りのために土のことを学ぼう」の続編として、土の中や地表の動物の基礎的な知識、植生との関係、調査方法を学びます。雑木林とスギ林とヒノキ林では、土壌動物はどれくらい違いがあるのでしょうか？観察会の素材としても面白いお話が聞けるとおもいます。なお資料の準備の都合上、ご出席いただける方は、できるだけ前日までに古南、黒川あきのみまでご連絡ください。

#### 主催行事のサポーターを募集中！

いきものを知る守るシリーズ「草地のバッタ調査隊」（小学生とその保護者対象の行事）

◆日時 調査編：9月17日（土）10:00～15:00 保護編：10月1日（土）10:00～14:00

★お申込み・お問合せは、レンジャー藤村までお願いします。 E-mail: fujimura-k@wbsj.org

・サポーターの方の生き物の知識の多寡は問いません。主に安全管理、観察の補助にご協力をいただきます。

ホランティアさん

6/10 ~8/7

ありがとう

6/11 村松古明さん、水上重人さん、竹田直矢さん：ゲンちゃん・ヘイちゃんの紙芝居劇場サポート

6/15 水上重人さん：ホテル調査補助 6/22、29、7/6、13、20、27も

6/18 鈴木昭司さん、藤原功さん：モンキチョウの広場ベンチ改修

6/18 中里幹久さん、水上重人さん、馬木木義久さん、幸保辰輝さん、佐々木美雪さん・彩愛ちゃん、竹田直矢さん：ゲンちゃん・ヘイちゃんの紙芝居劇場サポート

6/25 村松古明さん、小泉喜弘さん、佐々木美雪さん・彩愛ちゃん：  
ゲンちゃん・ヘイちゃんの紙芝居劇場サポート

6/25 雑木林ファンクラブの皆さん：日清オイリオ(株)CSR対応補助

7/2 保安全管理フォローアップの会にご出席いただいた皆さん：桜林の植生調査

7/13 工藤国敏さん：レッチェの補修

7/18 理事の皆さん：利用推進会議

7/24 漆原弘光さん、西山健太郎さん：「水辺の生きもの調査隊」のサポート

7/30 雑木林ファンクラブの皆さん：栄高校フィールドワーク対応協力・立ち枯れ木伐採

8/6 漆原弘光さん：「水辺の生きもの調査隊」のサポート

8/7 大越哲朗さん：カエルすごろく用サイコロ寄贈

6/10～8/7 カワセミファンクラブの皆さん：展示用野鳥・昆虫写真、自然情報のご提供

6/10～8/7 事務局内グループ「野草の調査と保護」の皆さん：開花情報のご提供

横浜自然観察の森 自然観察センター（月曜休館・祝日の場合はその翌日）

〒247-0013 横浜市栄区上郷町 1562-1

TEL:045-894-7474/FAX:045-894-8892 E-mail:[yokohama-nc@wbsj.org](mailto:yokohama-nc@wbsj.org)

<http://www.wbsj.org/sanctuary/yokohama/>

イラスト・黒川マリア



# 行事スケジュール 8月～10月

■：センター行事  
●：友の会行事  
★：共催行事

## ●友の会 季節行事●

- ミズキの池ハイド前の環境整備をしよう  
9/4(日) 9:10～11時ころ  
集合：自然観察センター前  
対象：友の会会員(中学生以上)→5ページ参照
- 森の作業体験(間伐体験)→5ページ参照  
9/24(土) 10:00～14:00  
集合：炭小屋前  
申込：メールまたは電話。先着30名。  
対象：小学生以上(小学生は保護者同伴)
- 野鳥は何を食べているのかな写真展  
10/2(日)～12/3(土)  
場所：ゴロスケ館 →5ページ参照
- 写真展「森の生きものたち」  
10/9(日)～11/12(土) 午前中まで  
場所：ゴロスケ館  
担当：定点カメラで動物調査
- 「金沢まつりいきいきフェスタ」に参加  
10/15(土)(雨天16日)  
場所：海の公園  
内容：友の会のPR展示をおこないます。

## ●共催行事●

- ★横浜自然観察の森秋まつり→1ページ参照  
10/23(日) 10:00～13:40  
申込：9/11～10/16に、友の会メール、またはセンターFAXで

## ●自然観察センター主催行事●

- 【草地のバッタ調査隊】  
日時：9/17(土) 10:00～15:00(調査編)  
10/1(保護編)  
申込締切：9/3(抽選40名)
- 【開園30周年記念トークショー「森へ行こうー横浜自然観察の森の楽しみ方」】  
日時：10/10(月祝) 13:00～16:00  
会場：開港記念会館  
出演：(公財)日本野鳥の会会長・柳生博、友の会・大浦晴壽さん、イラストレーター・東郷なりささん、写真家・佐藤岳彦さん  
申込期間：8/16～10/7(先着300名)
- 申込は行事名、全員の氏名、子の年齢、電話番号、返信先を書いてEメール、FAXで

発行日 2016年8月21日  
発行 横浜自然観察の森友の会  
FAX 045-894-8892  
E-mail: kansatsunomori@gmail.com

## ●友の会 定例行事●

- 季節の森を歩こう(園内の自然案内)  
～季節の変化や生き物のつながりを楽しみながら～  
9/4(日)・10/2(日)  
1回目 11:00～ 2回目 13:00～  
受付：30分前から 自然観察センター前にて  
対象：どなたでも  
担当：森の案内人・ハンミョウの会 毎月第1日曜
- 定点カメラで動物調査  
9/10(土)、10/8(土)  
9:30～12:00  
※雨天の場合、日程を変更する可能性あり。センターに確認のこと。  
対象：友の会会員向け  
持ち物：汚れても良い、白っぽい服、動きやすい靴で。タオル、水筒持参  
集合：ゴロスケ館集合  
活動日：5月～11月の毎月第2土曜日
- みんなでバードウォッチング(野鳥観察)  
～のんびり楽しむバードウォッチング～  
9/11(日)・10/9(日)  
9:00～13:00 雨天中止  
受付：自然観察センター前にて 対象：どなたでも  
担当：鳥のくらし発見隊 毎月第2日曜
- 森の絵本を楽しもう  
～簡単ミニ絵本づくりと読み聞かせ～  
9/21(水)・10/19(水)  
10:30～12:00 絵本作製  
受付：ボランティアルーム 対象：どなたでも  
担当：森の絵本づくりの会 毎月第3水曜
- 畑と作物をつくろう  
～生き物にあふれた畑を目指して～  
9/17(土)・10/15(土)  
10:00～12:00 雨天中止  
受付：自然観察センター前にて 対象：どなたでも  
担当：畑プロジェクト 8月を除く毎第3土曜日
- 自然と遊ぼう(園内の自然案内)  
～ゲーム感覚で、あそびながら自然とふれあい～  
8/27(土)・9/24(土)・10/22(土)  
1回目 13:00～ 2回目 14:00～  
受付：30分前から 自然観察センター前にて  
対象：子どもから大人までどなたでも  
担当：自然と遊ぼう 毎月第4土曜  
(※12月のみ第2土曜)